



Title	現代市民社会の分裂と集合 : ジョン・アーリの脱組織論から見た現代社会 [論文内容及び審査の要旨]
Author(s)	草津, 英律
Citation	北海道大学. 博士(学術) 乙第7054号
Issue Date	2018-03-22
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/70676
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/4.0/
Type	theses (doctoral - abstract and summary of review)
Additional Information	There are other files related to this item in HUSCAP. Check the above URL.
File Information	Hidenori_Kusatsu_review.pdf (審査の要旨)



[Instructions for use](#)

学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（学術）

氏名：草津 英律

審査委員	主査	准教授	金山	準
	副査	教授	鈴木	純一
	副査	准教授	岡本	亮輔

学位論文題名

現代市民社会の分裂と集合

—ジョン・アーリの脱組織論から見た現代社会—

草津氏の論文は、一九七〇年代以降における現代社会の変容について、英国の社会学者ジョン・アーリの脱組織化論を中心に検討したものである。現代社会のもつ特徴としてしばしば指摘されるのは、グローバル化・流動性・不確実性などの契機である。アーリは移動に着目しつつ、国民国家や階級といった旧来の社会学を成り立たせてきた枠組みの乗り越えを図る。他方で本論文が強調するのは、アーリにとってそれら旧来のカテゴリーの融解は単なる無秩序に陥るのではなく、積極的な秩序の再構築の契機をも有していることである。そこで注目されるのは新しい中間層による共同性の構築のプロセスであり、その最たるものとして、本論文の末尾ではツーリズムのもつ意義が論じられる。また本論文はアーリの社会理論のみを扱うのではなく、その師たるロックウッドや、一九七〇年代以降の現代社会の変容という問題意識を大枠で共有する他の重要な社会学者（ベックやハーヴェイ等）との関連も視野に入れることで、アーリ社会学の意義をより明確に浮き彫りにすることが試みられている。

本論文に関して、平成30年2月5日10時30分より12時00分にかけて、口述試験を実施した。まず草津氏より論文の要旨について口頭での説明があり、そののちに審査委員三名による質疑応答を行なった。

まず、本論の目的がアーリを主対象とする学説史的研究であるのか、現代社会論ないし社会理論研究であるのか、という確認がなされた。草津氏からは、社会理論研究であり、アーリは社会分析のための手段であるという応答がなされた。そのうえで理論的問題として、ツーリズムが「共在感覚」に、ひいては「コスモポリタニズム」へとつながるより具体的な機制や、「ツーリズム」概念と「消費」の関連についての問いがなされた。また現代との関連で、テロリズムのような現代的現象を

背景に置いたときアーリのツーリズム論にはいかなる意義が認められるか、などの質問が提起された。「分裂と集合」、「国民国家」、「シティズンシップ」などの概念についての確認も行われた。

本論文の難点として審査委員からまず指摘されたのは、観光がもたらす秩序構築の積極的契機についての叙述が、アーリによる現代社会分析におけるもっとも重要な論点として位置づけられる一方で、その内容自体はやや明確性・具体性を欠くのではないか、という点である。論文全体を貫く根本的かつ統一的な主張の所在やオリジナリティについても疑問が提起された。

ただし、以上のような問題がありながらも、全体としては、アーリの師たるロックウッドや、一九七〇年代以降の社会のラディカルな変容という問題意識を共有する他の論者との関係や比較も視野に入れたうえでアーリの位置づけが試みられている点、また各論者の論理について丁寧に跡付ける記述の堅実さについては積極的に評価がなされた。

以上の審査内容を総合して慎重に検討した結果、本審査委員会は、本論文を博士（学術）たる要件を満たしているものと判断するに至った。